

北海道の元気! NPO訪問

17 NPO法人 コンカリーニョ

文・加藤知美

地域密着の芸術文化拠点を市民自ら運営 アートとまちをつなぐ活動の充実めざす

◇ 再開発で解体された劇場を市民の手
で再建

近年高層マンションが建ち並び変貌をとげたJR
琴似駅北口に、二〇〇六年に市民の力をつくった
劇場がある。駅から渡り廊下でつながる商業棟のテ
ナントのひとつといった感じで、とりたてて目立つ
外観ではない。しかし、一步入ればそこでは熱い踊
りやパフォーマンスが繰り広げられたり、演劇公演
がおこなわれたりしている。座席数は二五〇ほどだ

が、自由度の高い空間を幅広いジャンルのアーティ
ストたちがさまざまに工夫して使っている。「コンカ
リーニョ」と呼ばれているその空間は、まちとアー
トを結ぶ拠点として機能し始めている。

原点は、この地にかつてあった古い札幌軟石の
倉庫だった。演劇の稽古場や公演場所としてしば
しば使われ、一九九五年に照明や音響の設備を揃
えたアートスペースとなり、スペイン語で「愛を
こめて」を意味する「コンカリーニョ」と名づけ
られた。しかし、地区再開発に伴い、二〇〇二年
八月に活動を休止した。

運営メンバーのひとりで、演出家であり役者で
もあつた斎藤ちずさんをはじめ、コンカリーニョ
に愛着のあつた多くのアーティストや観客は、移
転か再建かいろいろ悩んだ末に、市民の手による
劇場を同じ場所に再建し、琴似・八軒地区の地域
に密着した活動をめざすことを決断した。そして、
斎藤ちずさんを理事長とする「NPO法人コンカ
リーニョ」が設立され、五〇〇〇万円必要とされ
た劇場再建のための資金調達が始まった。企業の
大口寄付はなかなか集まらなかったものの、一口
一万円の個人からの寄付を中心に約一六〇〇万円
を集めた。結果として、資金集めを通じて支援者
が増えることになった。足りない分は借入れなど
でまかない、二〇〇六年五月に新生コンカリーニョ

のこけら落としの演劇公演がおこなわれた。

◇ 地域に根ざす活動で広がる支援の輪

劇場再建に奔走するかわら、地域に根ざした
活動を重ねた。「琴似あーとdeバザール本通り」
では、商店街のお祭りや連携してジャグリングや
パントマイムなどの大道芸を「出前」している。
また、琴似・八軒地区の歴史を題材として地域住
民参加型の創作劇も二〇〇六年から毎年つくって
きた。西区内で募集した出演者は、小学生や主婦、
商店街の人など幅広い世代だが、芝居は初めてと
いう人がほとんど。稽古を重ねるうちに役者らし
くなり、公演の評判も上々だ。これをきっかけに
NPOの活動にボランティアで加わり、ちらしを
配ったり受付を手伝ったりする人もでてきた。

演劇が地域に広がっていく一方で、今まで地域
にあまり関心をもたなかった小劇場系の劇団のアー
ティストたちが、地元を向けるような変化も
生まれた。ま
ちがアートを
育て、アートの
がまちのちか
らになるとい
う確信が、活
動を支えてき
た。
そうした交
流の最前線に
なっているの
は、芝居の稽



コンカリーニョの外観。公演のある日
にはぎやかになる。

古や公演での人々の関わりだ。演出家や役者、音響・照明などによる創作現場を支える裏方のスタッフが一体となるためには、自前の劇場であるコンカリーニョが拠点として大きな意味をもつ。また、地域とつなげたり、観客を広げたりするには、さらに協力者が必要となる。コンカリーニョでは、公演やNPOの運営事務を支えるボランティアスタッフ約五〇名を組織している。定期的にミーティングを重ね、公演のサポートや広報物の発送などの活動をしている。

◇ 拠点施設の活動通じ、地域との関係を深化

コンカリーニョでは、まちとアートの縁結び役としての活動を充実させるために、「ひろげようつなげよう」「深めよう 高めよう」を合言葉とす



旧曙小学校の交流カフェ「給食堂b i o」
(写真提供：コンカリーニョ)

る五カ年計画を策定した。交流を広げるためのカフェ構想や仲間づくりの具体策が並ぶ一方、経営安定化も目指した公共施設の管理・運営を掲げている。本拠地コンカリーニョのほかに、すでに二つの公共施設の管理運営を始めている。

ひとつは、コンカリーニョ再建中の二〇〇四年に西区から委託されて運営している「ターミナルプラザ」ことにパトスだ。地下鉄琴似駅に直結し、イベントホール、スタジオ、ギャラリーを備え、貸し館事業だけでなく市民の芸術文化を応援する各種事業を行っている。利用者が低迷していた施設を引き受けてのスタートだったが、徐々に稼働率はあがってきた。まだまだ活用しきれていないと言いたいというのが自己評価だが、札幌市事業仕分けの対象としての議論では、遊休スペース活用のモデルとして、仕分け対象事業中唯一の「現行どおり（拡大含む）」との評価となった。

そして、昨年一月からはさらに旧札幌市立曙小学校の空き校舎の管理運営委託をうけ、「あけぼのアート&コミュニティセンター」として三つの拠点を展開している。コンカリーニョやパトスで培ったアートNPOとしてのノウハウや多様な人的ネットワークによって、文化芸術の力を活かした地域力を高める拠点づくりを目指している。一四の教室を文化芸術活動を行う個人・団体に賃貸するほか、体育館やホール、音楽室を時間貸しする。校庭には菜園「あけぼのファーム」をつくり、収穫した野菜は元職員室を活用したカフェ「給食堂b i o」の食材となる。コンカリーニョ五カ年計画で「溜まり場としてのカフェ運営」の構想を掲げていたことが実現したかたちだ。

日常的にアーティストが出入りし、幅広い創作活動がおこなわれる環境は整った。子どもや高齢者を中心とした地域の人々とも気軽に出会えて交流できる場づくりが当面の目標だが、今後時間をかけて地域との信頼関係を構築しようとしている。

このように、コンカリーニョを含め三つの施設を運営する拡大路線を走っているだけに、運営体制づくりには苦労が多い。現在、有給スタッフ九名が各拠点に配置されている。活動の方向性を議論する理事も人数を増やし、スタッフをサポートしている。理事長の斎藤ちずさんは、資金調達と人材育成の重要性を痛感しつつ、スタッフの先頭にたって切り盛りしているが、活動内容への高い評価が必ずしもお金（収入）になっっていない現状を変えたいと思っている。演劇人としての活躍を知る周囲の人々からは、経営者の立場になることで、アーティストとしての表現活動の機会が減ることを惜しむ声も聞かれたが、市民の手でつくった劇場を拠点に、芸術文化のもつ可能性に賭けている。



いつもエネルギッシュな
斎藤ちず理事長

◆ NPO法人コンカリーニョ

所在地 札幌市西区八軒西1丁目2-10
TEL 011-6151-4859
WEB <http://www.concarino.or.jp>